

会社概要 2026

日本板硝子株式会社

Copyright © 2026 Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All rights reserved

Contents

会社概要

NSG グループとは? 3
事業展開 4
主要製造・研究拠点 5
主な沿革 6
中期経営計画　2030 Vision：Shift the Phase 7
脱炭素化への取り組み 8
サプライチェーンの取り組み 9
サイバーシティに関する取り組み 10
経営体制　取締役 11
　　執行役 12
社会貢献 13
国内拠点 14
Appendix 15

NSG Group とは？

**長きにわたりガラスに情熱を持ち、共に高め合う仲間たちと、
イノベーションを絶えず生み出してきた、「世界最大級のガラスメーカー」です**

伝統	100年以上の長きにわたり注ぎ続けたガラスへの情熱
事業展開	「ガラス」にフォーカスした 建築用ガラス、自動車用ガラス、クリエイティブ・テクノロジーの3事業を展開
グローバル	日本をはじめ、欧州、北米、南米、アジアに主要製造拠点を擁し、世界100か国以上で製品を販売
イノベーション	世界初の製品やイノベーションの数々で、持続的成長が可能な社会の実現を目指す
One Team	相互尊重と協力、ダイバーシティの文化、社会との共生

Our Vision

使命

快適な生活空間の
創造で、
より良い世界を築く

目指す姿

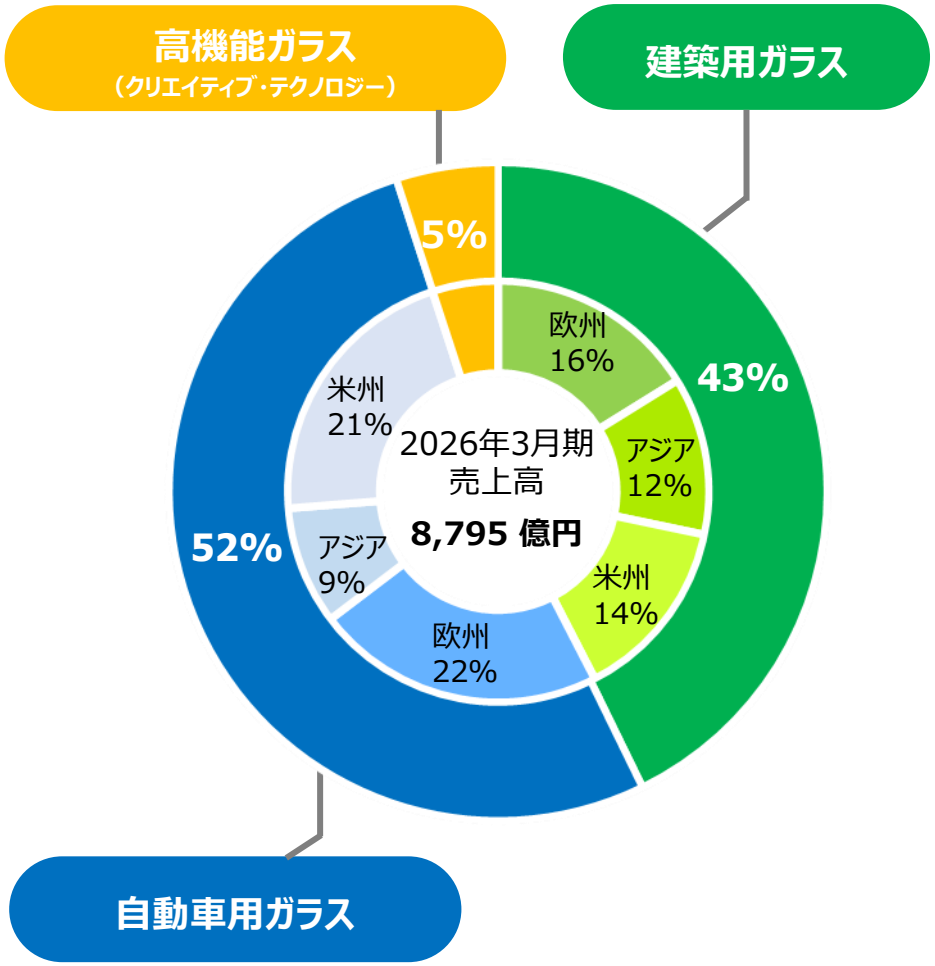
先進の発想で変化を起こし、
すべての分野で
最も信頼される
パートナーとなる

コア・バリュー

- 人を尊重し、人を活かす
- 信用を重んじ、誠実に行動する
- 社会に役立つ
- 自ら考え行動する
- 失敗を恐れず挑戦する
- やり抜き結果を出す



事業展開



建築用ガラス事業

建築用ガラスと薄膜太陽電池パネル用ガラスのリーディングサプライヤー

製品群
- 建築用ガラス
- 太陽電池パネル用ガラス
- 産業用高付加価値ガラス

事業概要

人々の生活スタイルや社会の変化により多様化するガラス製品のニーズに対応した高付加価値製品を数多く生み出しています。
また、2050年のカーボンニュートラル達成に向け、より低炭素でのガラス製造への努力を進めるとともに、当社が強みを持つ独自のオンラインコーティング技術を活用し、再生可能エネルギー向けや生物保護を目指した製品開発も推進しています。


Courtesy of First Solar Inc.





自動車用ガラス事業

世界最大級の自動車用ガラスメーカーとして新車用（OE）と補修用（AGR）を供給

製品群
- 新車用（OE）ガラス
- 補修用（AGR）ガラス

事業概要

従来の自動車ガラスの領域にとどまらず、「CASE」に対応した独創的な技術と柔軟なソリューションで、より安全、快適で環境に優しいガラス製品を提供しています。
当社はADASやHUDで求められる高精度なフロントガラスの製造に適した工法（APBL）の開発に世界に先駆けて成功し、グローバルに生産体制を構築しています。EV化を見据え、省エネ効果のあるIR（赤外線）カットガラスや調光ガラスなど、ニーズの拡大に沿った製品開発も進めています。





クリエイティブ・テクノロジー事業（高機能ガラス事業）

顧客製品の進化に貢献するユニークな素材を開発・提供し、市場に新たな価値を創造

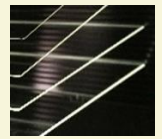
製品群
- オプトロニクス製品
- ガラス繊維
- ガラスフレーク
- 超薄板ガラス

事業概要

ガラスの特性を活かし、さまざまな組成や形状のガラス材料と加工技術、および新素材 ・ 新製法による革新的なオンリーワンのガラス関連材料で、ユニークな機能や価値を創造しています。

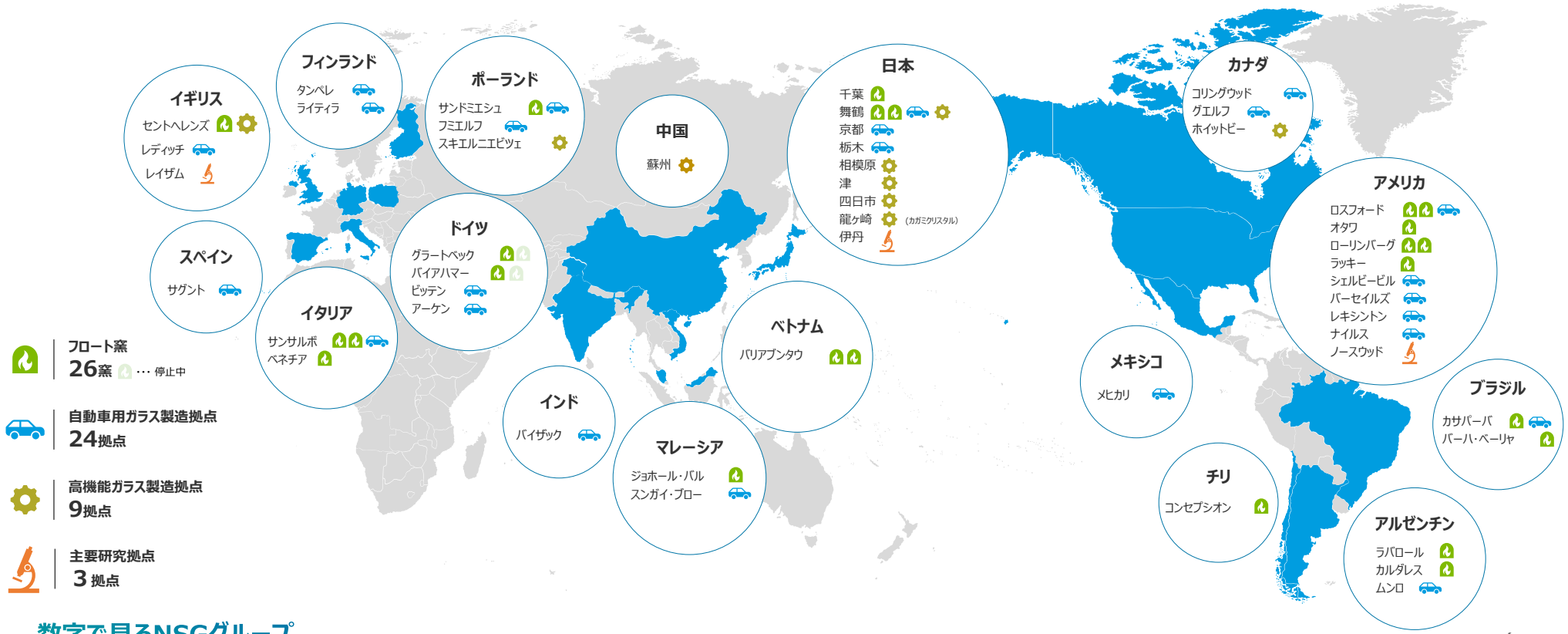








主要製造・研究拠点



フロート窯
26窯 … 停止中

自動車用ガラス製造拠点
24拠点

高機能ガラス製造拠点
9拠点

主要研究拠点
3拠点

数字で見るNSGグループ

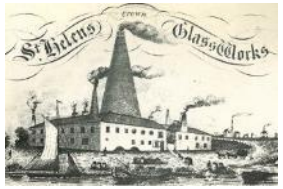
（2026年6月末時点）

売上高	従業員数	フロート窯数	設立年	販売国数
8,795億円 （2026年3月期）	**約24,800人** （2026年3月期末）	**26窯** （2026年6月末）	**1918年**	**100か国以上**

女性管理職比率	ガラス等無機材料研究への助成	オンラインガラスコーティング*2シェア	マルチファンクションプリンター用レンズ
18.0%（2024年12月末実績） ➡ **18.2%**（2025年12月末実績）	**1,566件** (総額約19.8億円以上：2026年5月末累計)	**1位** （10窯）	**1位**

主な沿革

1826-1940s
設立・事業拡大



1826年、英国でPilkington社の前身となる
St. Helens Crown Glass Companyを設立

1918年	**日米板硝子株式会社として大阪に設立**
1931年	社名を日本板硝子株式会社に変更
1936年	四日市事業所開設

1950s -1960s
生産能力増強と
自動車用ガラス参入

1950年	東京等の証券取引所に株式上場
1951年/1964年	舞鶴事業所開設/千葉事業所開設
1965年	舞鶴事業所にて東洋初となるフロート板ガラスの生産を開始

1970s-1990s
海外進出と
事業の多角化

1971年	マレーシアに海外初進出
1978-79年	超薄板ガラス・ガラス繊維事業開始
1995年	中国、ベトナムなどアジアを中心に海外展開継続

2000s
ピルキントン買収と
グローバル化

2004年	本店所在地を大阪から東京に移転
2006年	ピルキントン社を買収。板ガラス分野で世界最大手の一角へ
2008年	委員会設置会社（現・指名委員会等設置会社）へ移行

2010s-
高付加価値化と
財政基盤回復へ

2018年	経営指針Our Vision発表
2020年	太陽電池パネル用ガラス製造のため米国に工場開設、ベトナム拠点増強
2024年	中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」を発表
2025年	米国の製造ラインを、太陽電池パネル用ガラス向けに改修・操業開始
2026年	新生NSGグループに向けた抜本的施策を公表

「NSGグループ発」
世界初のガラス技術

1942年	初めてコーティングガラス技術の特許取得
1946年	複層ガラスの生産工場が初めて稼働
1952年	**フロートガラス製造法の開発**
1970年代	ロールスロイス社向けに電線ヒーター付フロントガラスの開発
1980年代	世界初熱分解反応によるオンラインLow-Eコーティングの開発
	GM社の電気自動車向けコーティング熱反射フロントガラスの開発
	PU RIM成型を用いたガラス製品の製造
1997年	世界初真空ガラス “スペーシア®”開発
1998年	オハイオ州ロスフォードに世界初の酸素燃焼フロートライン設置
2001年	世界初セルフクリーニング（防汚）ガラス開発
2003年	世界初オンラインコーティングされた高性能熱線反射透明ガラスの開発
2005年	反射防止機能付きガラスの開発

中期経営計画　2030 Vision: Shift the Phase

当社が強みを持つ「ガラスとその周辺技術」に焦点を当て、社会の持続可能な発展に貢献する高付加価値領域での収益拡大を目指します

GOAL

企業としてのフェーズを変え、持続可能な社会の発展に不可欠な存在を目指す

コミットメント

ー私たちは、すべてのステークホルダーのために、そしてステークホルダーとともに、持続可能な社会を実現する価値を創造する
ー私たちは、顧客のソリューションにおいて重要な役割を果たすガラスとその関連技術・サービスを開発し、提供する
ー私たちは、顧客の潜在的なニーズを深く理解し、有形無形の資産を活用して顧客に適したソリューションを提供する
ー私たちは、グローバルで多様性に富み、ガラスに情熱を持ち、才能あふれるチームを誇りとし、人材への投資を続けていく

NSGグループ戦略方針　４つの「D」

Business Development
新製品および事業開発の強化を図り

Decarbonization
社会の脱炭素化への貢献を目指す

Digital Transformation
デジタルをフル活用した付加価値の高いオペレーションを構築し

Diverse Talent
フェーズシフトをもたらす真に多様で包括的なチームを実現する

脱炭素化への取り組み

NSGグループは、2030年までにCO_2排出量を30%削減、2050年までにカーボンニュートラルの達成を目指しています

サプライヤーとの協業
原材料の見直し

1 水素、バイオ燃料の活用
（例： HyNet PJ), 電気溶融等

2 ガラスリサイクリング

3 CCUS

Storage

Utilization

工場オペレーションへの
再生可能エネルギー電力の活用

脱炭素社会に貢献する
製品群の拡大

Avoided emissions

Scope 3

Scope 2

Scope 1

取り組み例：HyNetプロジェクト

HyNetプロジェクトは、英国北西部を拠点とする大規模なBlue水素製造・供給ネットワークNSGのような産業ユーザー向けに専用パイプラインで供給



取り組み例：カーボンキャプチャー（CO_2分離回収）

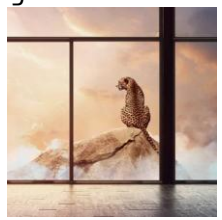
・NSGは英国で欧州初の炭素回収試験を成功裏に開始

・汎用型CO_2回収溶媒ユニット（CCDCU）による煙突内の煙道を流れる排出ガスからCO_2分離回収の実証実験を実施中



取り組み例：Pilkington Mirai™

カーボンフットプリントを50%削減したLowカーボンガラス「Pilkington **Mirai™**（ミライ）」により、建物の脱炭素化に寄与



サプライチェーンの取り組み

NSGグループは、サプライヤーの皆様と共に持続可能な社会の実現に取り組んでいます

サプライヤー行動規範

当社がサプライヤーに期待する最低限の基準としてサプライヤー行動規範を設定しています。

既存・新規にかかわらずすべてのサプライヤーに対して確認を行い、契約済みの主要なサプライヤーのほとんどからこの規範に対する合意を得ています。



サステナブル・サプライチェーン憲章

2023年9月、サステナビリティ目標の達成を加速するため、「NSGグループサステナブル・サプライチェーン憲章」を制定しました。
この憲章では、環境および社会への影響という観点で最も重要であると当社が特定した8つの分野をサプライヤーの皆さんと取り組む目標として定めています。



外部評価

CDPサプライヤーエンゲージメントリーダー

当社は、気候変動問題に対する企業のサプライチェーンへの働きかけを評価し、バリューチェーン内での企業間連携の促進を目的に導入された評価指標である、サプライヤーエンゲージメントリーダーとして認められました。

Supplier Engagement Leader
CDP
2025

Sustainable Procurement Pledge

2023年、プロボノコミュニティである「持続可能な調達の誓い」（Sustainable Procurement Pledge, SPP）の「リーグ・オブ・チャンピオンズ」に参加しました。この個人と企業のネットワークに参加することは、持続可能な調達とサプライチェーンの推進に繋がります。



Sustainable Procurement Pledge

ダイバーシティに対する取り組み

NSGグループは、誰もがベストを尽くせるインクルーシブな文化の醸成に取り組んでいます

NSGグループ　DEIポリシー

一人一人が活き活きと、ガラスのように輝き続ける組織を作り、発展させていく

Diversity	Equity	Inclusion
一人一人の違いを認識し、お互いを尊重し、価値を生み出す	一人一人に合った機会を提供し、各自が力を発揮する	一人一人が安心して意見を述べ、議論し、決定を導く

NSGグループ　基本ステートメント

インクルーシブな組織文化と環境を築いていきます

私たちは、すべての人が最大限の能力を発揮し、その豊富なアイデアを活かせるように、均等な機会を提供します。

多様な人材を求めていきます

個人の素性、経験、嗜好および心情の違いを認め、尊重し、その多様な視点を重視します。

私たちはこのステートメントに基づいて活動していきます。



国際女性デー 生理痛体験社内イベント

プラチナくるみんマーク取得



テック業界の多様性を推進する
「Skills City プログラム」



イタリアの拠点を国際女性デーを記念し
紫にライトアップ

**Flat, Frank, Fast, Funの4つのFを組織内での
コミュニケーション文化として浸透させる**

経営体制　取締役および監査役　（2026年9月30日時点）

アポロの支援の下、機動的かつ抜本的な意思決定を可能とする経営体制を構築

取締役

代表取締役 社長　兼　CEO　（最高経営責任者）	**細沼　宗浩**
取締役	**岡本　哲士**
取締役	**麥田　悠真**

監査役

監査役	**中山　大輔**
監査役	**佐々木　順悠**

経営体制　執行役員体制　（2026年9月30日時点）

国際性、ジェンダー、年齢等、多様な人材からなる経営陣



社長　兼　CEO
（最高経営責任者）
細沼　宗浩
代表取締役



CFO（最高財務責任者）
相浦　宏
エグゼクティブ
バイスプレプレジデント



建築ガラス
事業部門長
レオポルド・ガルセス・カスティーリャ
エグゼクティブ
バイスプレプレジデント



CHRO（最高人事責任者）
デニース・ヘイラー
エグゼクティブ
バイスプレプレジデント



クリエイティブ・テクノロジー
事業部門長
岡本　久
エグゼクティブ
バイスプレプレジデント



Auto
事業部門長
ロブ・パーセル
エグゼクティブ
バイスプレプレジデント



CD&IO
（最高デジタル・
情報責任者）
ビクター・ヤックン
エグゼクティブ
コーポレートオフィサー



CLO（最高法務責任者）
兼　CE&CO（最高倫理・
コンプライアンス責任者）
ミハエル・キーファー
エグゼクティブ
コーポレートオフィサー



サステナビリティ部
統括部長
小林　史朗
エグゼクティブ
コーポレートオフィサー



CSO（最高戦略責任者）
兼　暫定CTrO
（最高変革責任者）
中辻　陽平
エグゼクティブ
コーポレートオフィサー



CTO
（最高技術責任者）
ケビン・サンダーソン
エグゼクティブ
コーポレートオフィサー



グループ経営管理部
統括部長
谷口　嘉章
エグゼクティブ
コーポレートオフィサー



CPO（最高購買責任者）
ジョン・ウィルガー
エグゼクティブ
コーポレートオフィサー

社会貢献

NSGグループは、事業を展開する地域社会の責任ある重要な一員として、地域社会の発展に積極的な貢献を果たすことが重要であると考えています

（公財）日本板硝子材料工学助成会

（公財）日本板硝子材料工学助成会は、日本板硝子株式会社の創立60周年を記念して、無機材料の学術及び技術の発展を目的に1979年に設立されました。助成会では累計で1,526件の研究に対して、総額19億円超の助成を行っています（2025年6月現在）。設立以来45年以上にわたり、当社は助成会の活動支援を通じて無機材料の学術と技術の発展を応援しています。



YMCA of Greater Michianaの支援（アメリカ）

ミシガン州ナイルズ事業所は、州境をまたぐ非営利団体YMCAの長年のパートナーとして、健康増進や生活改善を目的とした地域活動に協力しています。中でも人気なのがユース向けバスケットボールリーグへの協賛で、2025年は4チームを支援し、40人の子どもたちが無料で参加しました。毎年200人以上が参加するこのプログラムは、冬に屋外活動が制限される地域で、子どもたちに安全な居場所と運動機会、そしてボランティアコーチから学ぶ機会を提供しています。



「Solidarity Legs」プロジェクト（ブラジル）

ブラジルでは、NSGグループのジョイントベンチャーであるセブラセの従業員により、「Solidarity Legs」というボランティアグループが設立されました。歩行が困難な人々にも走る喜びを届けることを目的に、改造された三輪車を用い、ボランティアランナーが参加者を伴走します。バラヴェーリャを拠点に、車椅子ユーザーや障害のある方々の社会参加を促進し、ランニングを通じたインクルージョンの実現を目指しています。

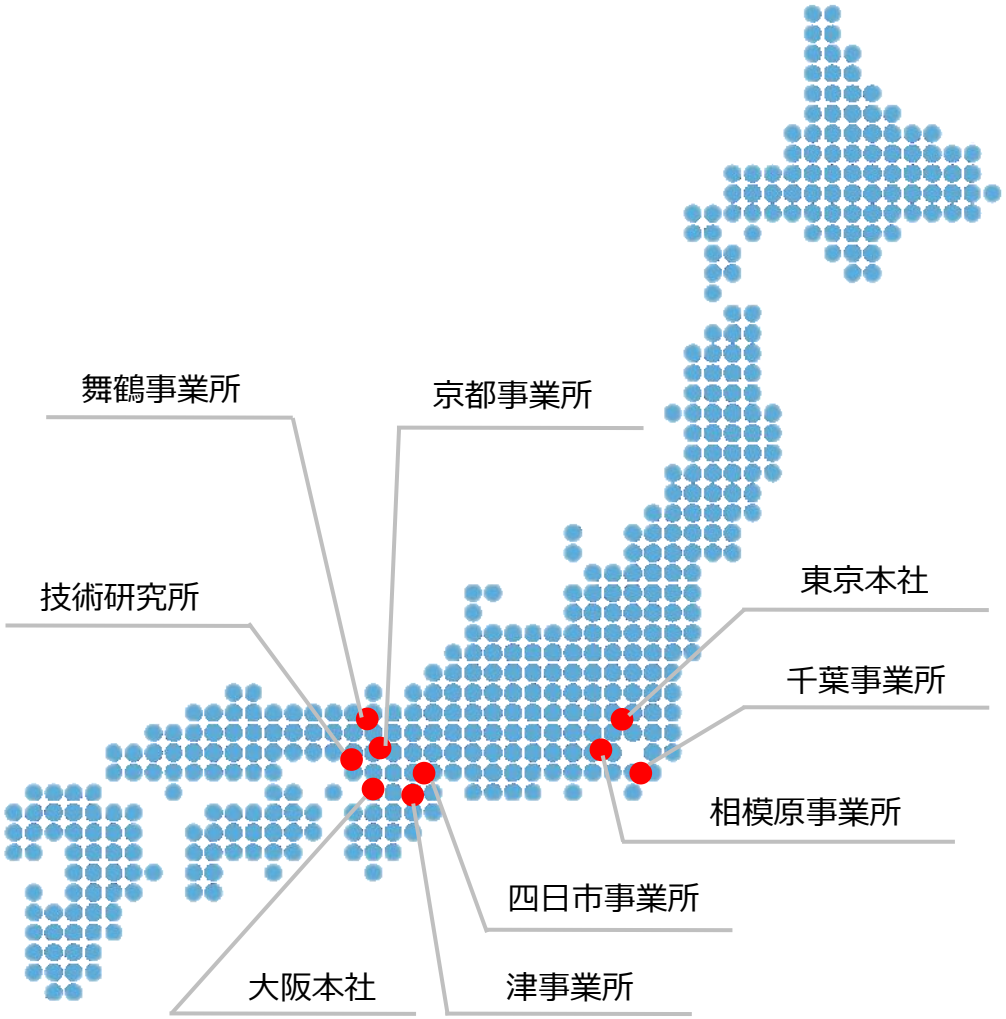


Bee Projectを通じたチャリティ活動（イギリス）

当社グループ会社のレイザム事業所では、社員のボランティアによる養蜂を行っています。蜂蜜は地域で販売され、その収益はAlder Hay Children's Charity (アルダー・ヘイ児童慈善団体)に毎年寄付されています。
本活動は蜜蜂が好む自然豊かなレイザム事業所周辺の環境と生物多様性の保護にも役立っています。



国内拠点

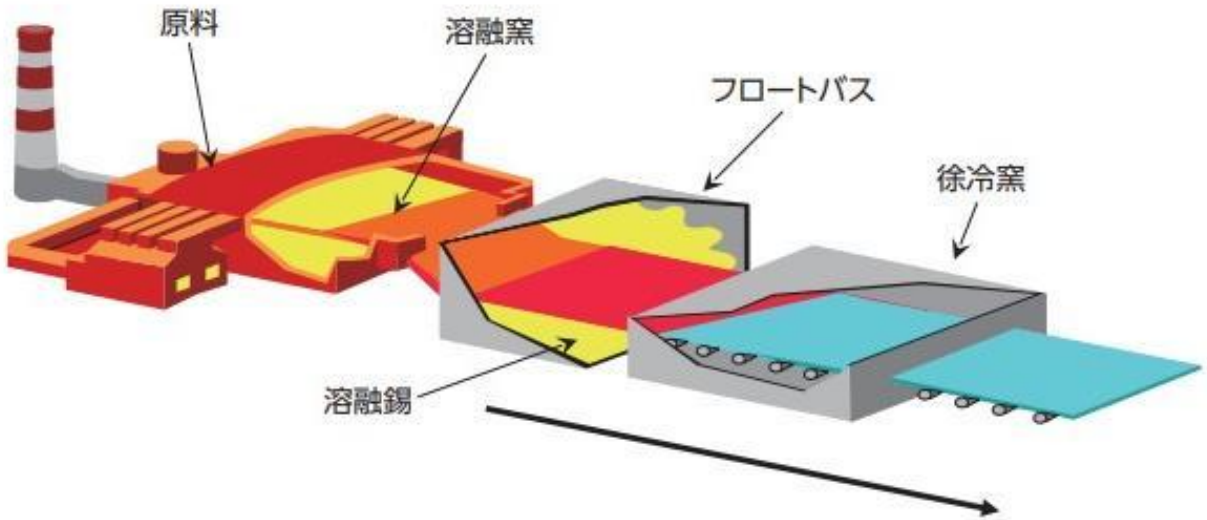


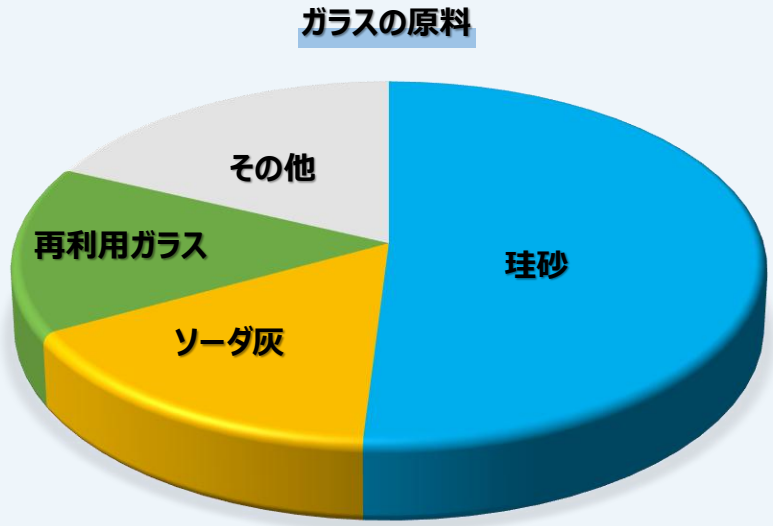
東京本社	〒108-6321 東京都港区三田3丁目5番27号住友不動産東京三田サウスタワー TEL 03-5443-9522
大阪本社	〒541-8559 大阪府大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友ビル4階 TEL 06-6222-7512
技術研究所	〒664-8520 兵庫県伊丹市鴻池2丁目13番12号 TEL 072-781-0081
千葉事業所	〒299-0107 千葉県市原市姉崎海岸6番地 TEL 0436-61-2111
相模原事業所	〒252-5189 神奈川県相模原市緑区西橋本5丁目8番1号 TEL 042-775-1501
四日市事業所	〒510-0051 三重県四日市市千歳町2番地 TEL 059-352-3111
津事業所	〒514-0817 三重県津市高茶屋小森町4902番地 TEL 059-238-1111
京都事業所	〒601-8206 京都府京都市南区久世大薮町469番地 TEL 075-934-8218
舞鶴事業所	〒625-8666 京都府舞鶴市大波下小字浜田255番地 TEL 0773-62-2351

フロートガラス製造工程

フロート板ガラスとは

フロート法は、1950年代に現在のNSGグループの一員である英国ピルキントン社が発明した画期的なガラス製造法です。
その工法は、約1600℃まで加熱し、溶けたガラスを溶融錫（スズ）の敷かれた炉（フロートバス）に流し込み、錫の上に浮かべることで、両面が完全に平らで均等な厚みの板ガラスを製造するものです。
速度を調節し、徐々に冷却しながら成形した板ガラスを連続的に引き出すことにより、所定の厚みの平滑なフロート板ガラスが製造されます。

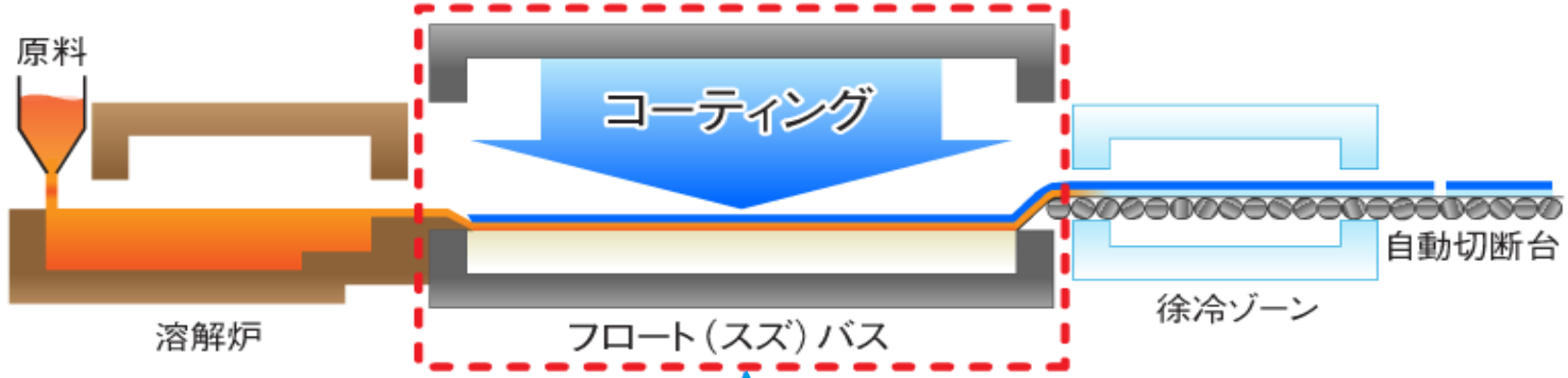






Appendix

オンラインコーティング概略図



用途に合わせた透明金属膜を
コーティング

オンラインコーター付きフロート窯（2026年6月時点）

世界のフロート窯10窯に設置されており、ガラスに様々な機能性（電気を通す、赤外線の反射等）を追加しています。



オンラインコーティングの特徴

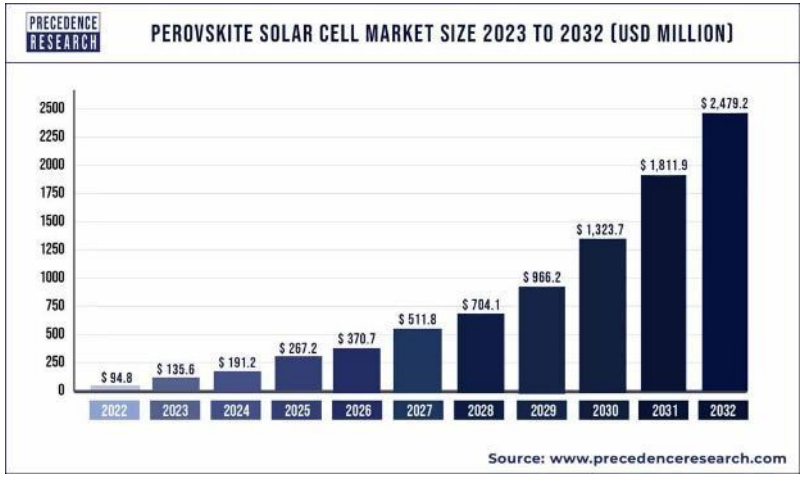
- フロートバス内でガラスの成形と同時に薄く均一な金属膜を生成
- 低コスト、大寸法にて対応が可能
  強固な膜 – 後加工が容易、外装面にも利用可能
- 多用途 – 建築用・太陽電池パネル用以外に 自動車用Low-Eガラス、薄型/湾曲ディスプレイ、OLED照明、薄膜センサーなどへの展開および拡大を期待



ペロブスカイト太陽電池

ペロブスカイト太陽電池とは

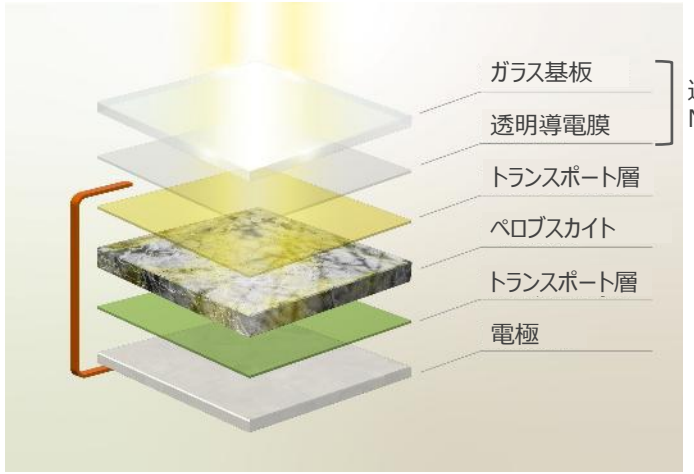
ペロブスカイト太陽電池は、「ペロブスカイト」と呼ばれる特殊な結晶構造の材料を使った次世代の太陽電池です。製造工程が比較的簡単で、将来的には低コスト化が期待されています。一方で、耐久性や長寿命化、大量生産時の品質安定化などが課題であり、現在は実用化・普及に向けた開発が進められています。



NSG TEC™とペロブスカイト太陽電池

NSG **TEC**™ガラスは、以下の特徴により、ペロブスカイト太陽電池モジュールにおける発電に重要な役割を果たすことができます。

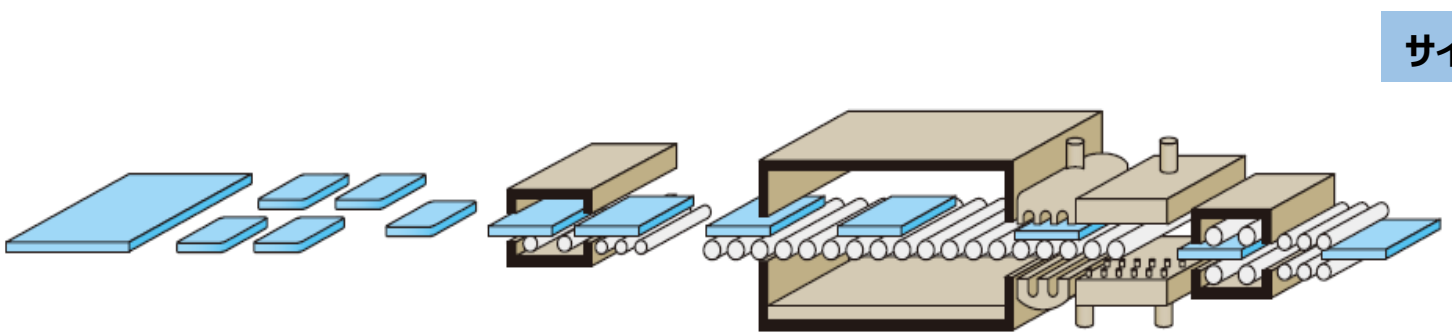
- 発電に寄与する適切な波長の太陽光の最適な透過
- モジュール内で発電された電流の高効率な取出し



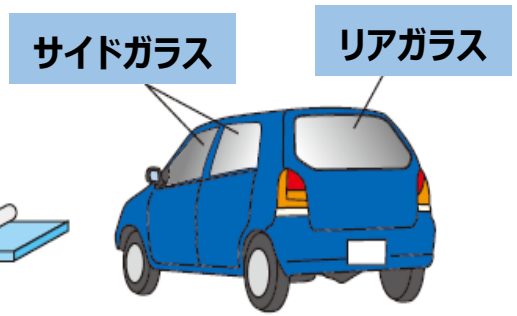
自動車用ガラス製造工程：強化ガラス

強化ガラスとは

衝撃に対する強度が通常のガラスの3倍～5倍に強化されたガラスです。
板ガラスを強化炉に入れ、軟化温度に近い650℃～700℃に加熱後、空気をガラス両面にムラなく吹き付けて急冷します。
この過程で表面に安定した圧縮応力層が形成され、強化されます。



強化ガラスの主な採用箇所



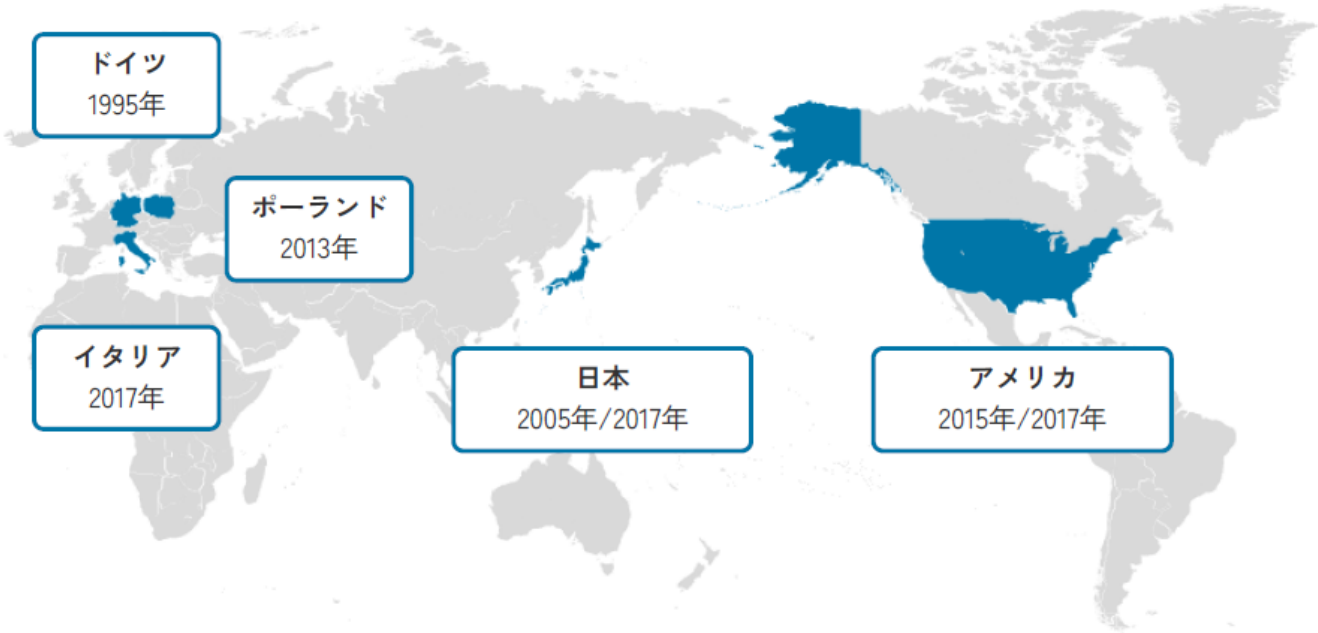
自動車用ガラス製造工程：APBL

APBLとは

フロントガラス用高精度プレス工法設備（Advanced Press Bending for Laminated Glass）を指します。近年はADAS*2や HUD*3などのニーズが高まっており高精度なフロントガラスの製造が求められています。
当社では1995年以降、世界に先駆けて当社独自のAPBL*1高精度プレス工法設備の設置を開始し、グローバルでの生産体制をいち早く整備しました。
正確にADASを機能させて事故を防止したり、速度やナビゲーションを投影させたりするためには
高精度なフロントガラスの加工技術が必要となります。



APBL 設備場所と設置年



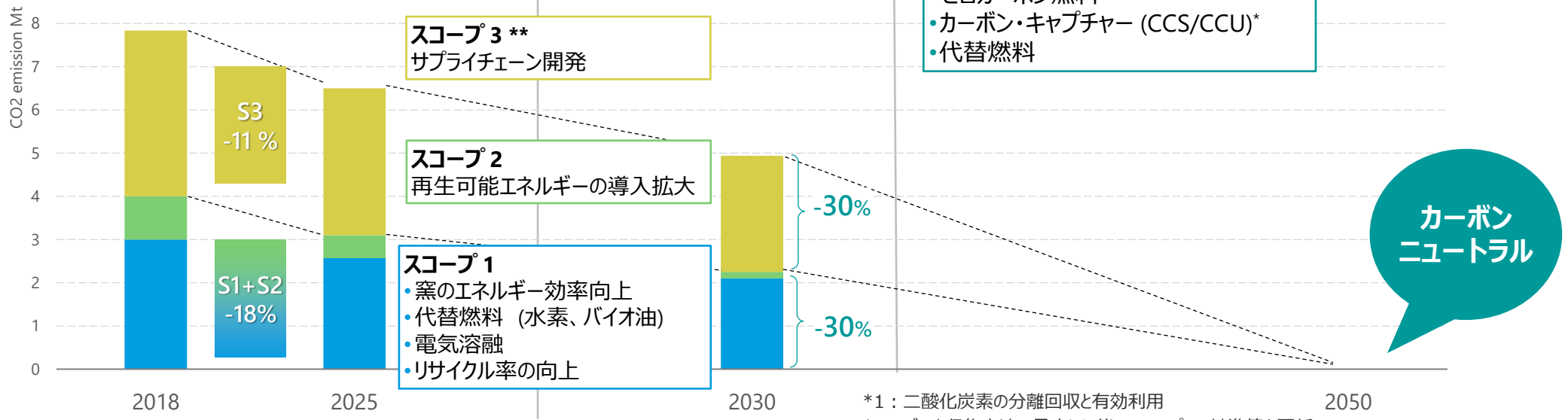
*1 APBL: フロントガラス用高精度プレス工法設備
(Advanced Press Bending for Laminated Glass)
*2 ADAS:先進運転支援システム
(Advanced Driver Assistance System)
*3 HUD: フロントガラスなどに直接情報を映し出すことができる技術
(Head Up Display)

カーボンニュートラルへの取り組み

2050年カーボンニュートラル達成へのロードマップ

	2025-MTP-2027	2030	2050
目標	MTPにおいては 対前年比で3%のCO_2排出量削減を達成	2030年目標（2018年比） ・スコープ 1&2：30%削減 ・スコープ 3　：30%削減	カーボンニュートラル達成
	既存技術の発展	移行ステージ	非連続イノベーション

主要な対策



*1：二酸化炭素の分離回収と有効利用
*2：データ収集方法の見直しに伴いスコープ3の基準値を更新

NSG GROUP

公式SNSアカウントはこちら

＼ Nグマくん ／

